アウクスブルクでの滞在記

大塚　創史

はじめに

アウクスブルクでの 7 泊 8 日は今までに経験したことがなく、何事にも変えがたい素晴らしい時間でした。また長浜市・尼崎市の団員で同年代の方々と過ごせたことも貴重な時間でした。ここでは現地で経験したことや現地での出会いを滞在記として記したいと思います。

1 日目



ドイツ・ミュンヘン空港に到着後、アウクスブルク市の方の案内を受けて、バスでアウクスブルク市へ向かいました。現地は日本と違い、車も右側通行で、また少し肌寒く空気もカラッとしていたためドイツに来たのだなと実感しました。ホストファミリーとの合流地であるアウグスブルクの消防署に行く前に、アウクスブルクのお祭りである、アウクスブルク・プレラーを見学しました。この祭りは、移動式の遊園地で当日は日曜日であったため多くの子供連れの家族が来ていました。またここで昼食もとることになっており、ここではサラダやチーズ、そして七面鳥などが用意されていて、どれもとても美味しかったです。昼食後は、アウクスブルク中央消防署へ向かい、消防署施設の見学をしました。日本とは違ったシステムの消防車などが置いてあり、また 2 回から棒を伝って下の階に降りる場面を実際に消防署の方が実演してくださいました。見学中に出動命令がかかったため、実際に出動する消防車を見ることもできました。見学を終えたあとは、ホストファミリーが消防署の駐車場に集まっていて少し緊張していましたが、ホストファミリーが笑顔で出迎えてくれてため、緊張は吹き飛びました。私のホストファミリーは退職された夫婦でした。ホストファミリーの車に 15 分ほど揺られると家に着き、荷物の整理やシャワーなどを浴びてリフレッシュをしました。私の部屋はヨーロッパでよくある天井が屋根のロフトの部屋でした。初日の夕食はガーデンで BBQ をしてもらい、自己紹介など会話を楽しみました。長旅の疲れもあり、初日はぐっすりと眠れた気がします。



2 日目

この日は、アウクスブルク市内を中心に見学しました。まず山岡氏とディーゼル氏の石碑があるディーゼル・ハインを見学し、その後、長浜・尼崎の名前が着いた通りを見に行きました。想像していたよりも大きな幹線道路に名前が付いており、改めて両市の関係の深さに感銘を受けました。その後、日本庭園がある Botanischer Garten へ行き見学をしました。海

外であるのに日本庭園の中に入った瞬間はいつも感じているような安心感を覚えました。1 時間半ほど見学をしたあと、世界最古の福祉施設住宅であるフッゲライを見学しに行きました。ここは一年間の家賃が 1 ユーロ以下（150 円程度）という、ヨーロッパにおいても日本においても考えられないほどの破格の値段だったことに衝撃を受けました。ただし、入居の条件として、アウクスブルク市民であることや経済困窮者であること、またカトリック信者であることなど様々な規定もあります。しかしながら、一軒一軒しっかりとした水道設備などが整っており非常に住みやすそうだと感じました。この日の昼食はフッゲライ内にあるビアガーデンで食べました。マウルタッシェンというドイツ風シュニッツェル餃子をいただきました。日本の餃子よりも皮が固くカリッとした食感に食べ応えを感じました。その後アウクスブルク市内を散策したあとにグランドホテル・コスモポリスを訪問しました。この日は 17 時半過ぎにホストファミリーの迎えがあり帰宅後夕食を食べ、身支度を済ました後に、リビングルームでホストファミリーとオクトーバーフェスのビールをいただきサッカーを見ながらいい夜を過ごしました。





3 日目



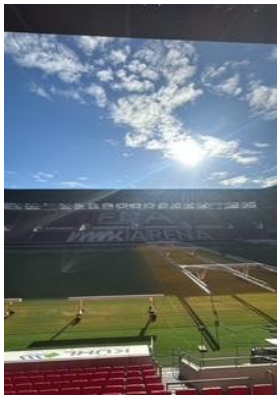
ロココホールでの公式歓迎レセプションを終えたあと、地元の市場に向かいました。チーズや野菜など様々なものが売っており、スーパーよりも値段は少し高いようですが、ここで特に印象に残っているのが、オーガニックの商品が多かったということです。ホストファミリーと話していてもヨーロッパではオーガニックの商品が多いということを話されていました。その後は市立図書館に行きました。ここでは本の貸出はもちろん、レコーディングルームやミシンなどの日用品の貸出など本以外の物のサービスも行われていることが印象的でした。昼食を挟んで、伝統衣装の「ディアンドル」を着用する体験をし、記念撮影を行いました。人形劇場である「プッペンキステ」の見学も行いました。ここでは劇場の歴史を学んだり、実際にどのように動かすのかを見たりもしました。実際に私達も体験しましたが、想像以上に操作するのは難しく、改めてプロの方はすごいなと実感しました。そして何より一番印象に残っているのが、実際の劇場の舞台裏を見られたことです。普段は見ることの無い舞台裏でどのように人形を操る人が動いているのかということがわかるような経験になりました。そしてこの日は夜に日独協会メンバーとの夕食会がありました。協会の方々と私たちでケーゼシュペッツレというアウクスブルク周辺の伝統的な料理を一緒に作るという体験をしました。料理を一緒に作ったことによって会話も弾み、協会の方はもちろん、長浜市と尼崎市の団員同士の仲もより一層深まった時間となりました。

4 日目

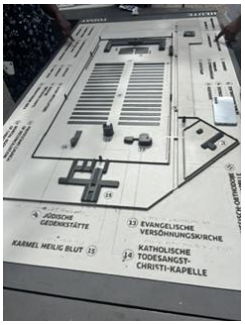


この日は、少し足を伸ばしオーストリアとの国境付近のフュッセンまで行きました。トレイル樹冠遊歩道を経由して、1 番の目玉であるノイシュバンシュタイン城に向いました。お城の麓で買い物や昼食を済ませ、昼過ぎ頃に場内見学へ行きました。このノイシュバンシュタイン城はシンデレラのモデルになっており、その美しさには感動しました。場内のシャンデリアや家具などの装飾も素晴らしく、お城の中には人工洞窟なども~~ありましましたた~~ありました。同じお城であっても日本の和のお城とは全く異なった様式で、これぞヨーロッパという感じを受けました。お城から降りる際には馬車に乗って当時の王族のような気分も味わうことができました。次にヴィース教会を訪れました。ここは、天井や壁に豪華絢爛な装飾やキリスト教の絵が施されており、協会と言うより美術館と思うほどの美しさを感じました。

5 日目



この日は山岡財団の支援を受け様々なプログラムを体験する 1 日となりました。まず初めに、WWK アリーナを訪問しました。ここはドイツブンデスリーガの FC アウクスブルクの本拠地で実際にプロがプレーしていると言うだけあって、芝生や食堂を含めて素晴らしいスタジアムでした。特に選手が普段座るベンチなどにも行かせてもらい貴重な体験をすることができました。その後、第二次世界大戦で使用されたダッハウ強制収容所を訪れました。ここでは当時収容された人が着ていた衣服やベッドなどを実際にみることができ、また戦争の悲惨さを学ぶことができ改めて考えさせられる時間となりました。平和を希求するためには過去のことをしっかりと学びそれらを活かすことが非常に重要だと感じました。このような施設は今回のようなプログラムでないと来る機会はなかったと思うので貴重な体験をすることができ感謝しています。この日の昼食はダッハウで ウィーン風シュニッツェル、フライドポテトとサラダ添えをいただきました。毎回そうなのですが、この昼食の時間も団員や職員の方と様々話すことができ、とても良い時間でした。次にミュンヘンにある BMW 博物館を訪れ BMW についての歴史や実際に過去に作られた車も展示されていました。ここで特に印象深かったのは、その展示方法でした。ただ展示しているのではなく、上から順にくだりながら歴史を進めていくという展示にも面白さを感じました。1 時間半ほど見学をしたあと、ミュンヘン市街地へ行き、レジデンツ宮殿礼拝堂でコンサートを鑑賞しました。フルートとハープでの演奏で、「モルダウ」など有名な曲を聴けて心が穏やかになる時間とな



りました。帰りのバス内で、ソーセージを頂きましたが、本場とあって特に白ソーセージがとても美味しかったです。この日はホストファミリー宅への帰宅が遅くなりましたが、帰宅後身支度を終えてリビングで今日の出来事を話しました。

6 日目



いよいよ残り日数も少なくなってきました。この日はまず世界遺産で現在もアウクスブルクを支えている給水塔を見学しに行きました。アウクスブルクが成立した当初からこのような給水塔が設備され始めていたことに驚きを感じました。現在給水塔はミニ博物館のようになっていますが水路などは現在も使われており、それが保存されていることにも驚きました。建物が古いため、階段などは傾いているところもありましたが、それも歴史を感じさせてくれる体験となりました。その後、現地の職業訓練センターを訪れました。ドイツでは大学卒業後すぐに就職するのではなく、日本で言うところのインターンのような期間があることを知りました。この訓練センターは、精神的な問題などを抱える若者に対して、あらゆる面からサポートして彼らの就職を支援する施設で、日本とは全く異なるシステムであるため非常に興味深かったです。その後は昼食を取り、アウクスブルク市街地でお土産を買うなどの自由時間を過ごしました。この日の夜にはフェアウェルパーティがありました。私たち長浜の使節団からは長浜市とアウクスブルクの比較クイズと福笑い体験・名前プレートプレゼントを行いました。最初は緊張していましたが、ホストファミリーを始め参加してくださった方々がとても楽しんでくださいっていたので、感謝の気持ちでいっぱいです。何とか成功したと思います！料理も美味しく、他の方のホストファミリーとも話せたのでとても有意義な時間となりました。



7 日目



この日は各自、ホストファミリーと 1 日過ごす自由行動の日でした。私は名所巡りが好きということもあってホストファミリーはバイエルン・ハールブルクとネルトリンゲンに行く計画を立ててくれました。ホストファザーとマザーそして、ホストファザーの弟も来てくれて 4 人で行くことになりました。ハールブルクでは、お城とその城下町を散策しました。天気も良く、とても心地よい場所でした。その後、進撃の巨人のモデルとなったネルトリンゲンに向かいました。ここは街全体が大きな城壁に囲まれており、街がひとつのお城のようになっていました。着いてからまず昼食を取りました。土曜日で観光地とあって多くの人で賑わっていました。昼食を取り終えたあとは街の真ん中にある教会のダニエルの塔へ登りました。高さ約 90m で

調べてみると約350段もの階段があるそうです。登るのにはとても疲れましたが、頂上に登った時に上から見た景色はとても綺麗でした。下では分かりませんでしたが、実際に上から見ると本当に城壁が街を一周囲んでいることがわかりました。また城内の建物の屋根はほとんどオレンジ色で統一されていたので美しく感動しました。城壁は内側で歩けるようになっており、半周ほど歩きました。壁には落書きも沢山書いており、終わりかけながら改めて海外に来たと実感しました。その後コーヒーを飲んで休憩し、帰路に着きました。最後の日の夜はガーデンで1週間の思い出を話しながら過ごしました。



最終日

最終日の朝、いつも通り朝食を済ませ身支度を終えて集合場所へ向かいました。初日に出会った消防署でホストファミリー達に別れを告げて私たちはミュンヘン空港に向かいました。バスからホストファミリー達に手を振りながら、充実した日々を思い出しました。また必ずホストファミリーに会いに行きたいと強く思いました。

おわりに

私はこの青年使節団の派遣を通じて、多くの変え難いことを経験することができました。まずは、現地で実際に生活しているホストファミリーの家にホームステイをしたということです。実際にホームステイをすることによってその地域の文化をより身近に肌で感じることができます。食の文化も違えば、生活様式も全く異なります。そのようなことを実際に身をもって経験できたということは自分のこれからにとっても貴重なことであったと思います。また英語を使っての会話であったので、英語そのものもそうですが、通じない時にはどうすれば通じるのかなど臨機応変に対応できる術を学ぶことも出来ました。これは実際に海外に行かなければ体験できないことだと思います。このような交流は相互の理解にも繋がり、私もその一員になれたことをとても嬉しく感じました。

この青年使節団で経験したことは長浜市における国際交流事業へ貢献できると考えます。現地を訪れたことによりアウクスブルクの衣食住を実際に体験できました。このことを通じてお互いに理解が深まったと感じています。しかしながらここで終わるのではなく、実際に経験したものがそれぞれ現地で広めていかなくてはなりません。そのような意味において、私はこれから現地で得たことを発信すると共にこれからもこのような事業に携わって行けたら幸いです。

最後に、今回この派遣に関わってくださった長浜市・尼崎市、アウクスブルクの職員の皆さん、現地で携わってくださった方々、ホストファミリーそして、長浜、尼崎の団員の皆さん、本当にありがとうございました。